

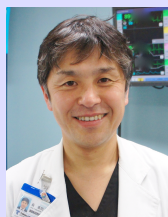


東海大学大学院 医学研究科

教員紹介

領域(医学部組織)
心臓血管外科学

専門分野キーワード
心臓血管外科



教員氏名 長 泰則(ちよう やすのり)

取得学位 博士(医学)

現在の身分 教授

(役職名)

専門分野 心臓血管外科学

現在の研究課題 重症心不全に対する左室形成術・僧帽弁手術

虚血性心筋症に対する非移植治療の遠隔成績

胸部大動脈治療における脊髄神経細胞障害

所属学会

日本胸部外科学会(評議員)、日本外科学会(代議員)、日本心臓血管外科学会(評議員)、Society of Thoracic Surgeons、European Association for Cardio-Thoracic Surgery、Asian Society of cardiovascular Surgery、日本血管外科学会、日本冠動脈外科学会(評議員)、

日本冠疾患学会(理事)、日本血管内治療学会

研究内容

①多施設共同研究

「日本における虚血性心筋症に対する左室形成術の予後の検討」

重症心不全症例に対する外科的治療(左室形成術)は心移植件数が少なく人工心臓に関しても欧米とのデバイスラグが著しい日本において特に重要な外科治療選択の1つです。当科ではこの左室形成術を積極的に行っており本邦でも有数の手術経験があります。そこで、日本における虚血性心筋症に対する左室形成術の実態、成績をretrospectiveに検討し、遠隔成績を明らかにするために本多施設研究に参加しています。

②自主研究

「胸部大動脈治療に伴う脊髄ドレナージ排液中の興奮性アミノ酸濃度測定による脊髄神経細胞障害の評価」

胸部大動脈治療中の脊髄虚血に伴う対麻痺を含む脊髄障害の主体は興奮性アミノ酸、特にグルタミン酸、アスパラギン酸の二次的な脊髄神経細胞障害といわれており、このような病態では興奮性アミノ酸の髄液中の濃度が上昇し神経毒性が発現することが示されています。そこで本来手術中の治療目的で行われる脊髄ドレナージの排液中の興奮性アミノ酸濃度を測定することにより脊髄神経細胞障害の予測、治療効果の判定に役立てるか調べていきます。

主要論文

1. Exogenous aspartate neurotoxicity in the spinal cord under metabolic stress in vivo. Ann Thorac Surg 2000;70:1496-500.
2. Protective use of N-methyl-D-aspartate receptor antagonists as a spinoplegia against excitatory amino acid neurotoxicity. J Vasc Surg 2005;42:765-71.
3. Long-term results and mid-term features of left ventricular reconstruction procedures on left ventricular volume, geometry, function and mitral regurgitation. Eur J Cardiovasc Surg 2012;42:462-9.
4. Long-term outcomes and comparison after conventional coronary artery bypass grafting for left main disease between patients classified as percutaneous coronary intervention recommendation classes II and III. Eur J Cardiovasc Surg 2014;45(3):431-7.
5. Non-heart transplant surgical approaches with left ventricular restoration and mitral valve operation For advanced ischaemic cardiomyopathy. Eur J Cardiothorac Surg 2014; 46(5): 849-56.